

2016年度 日本文化人類学会
第26期・第27期新旧合同理事会 議事録(案)

日時：2016年4月17日(日) 13:30～16:30 会場：アルカディア市ヶ谷私学会館

(第26期)

出席予定者：関根、池田、石田、上杉、太田、岡田、春日、亀井、窪田、栗田、桑山、湖中、田中、名和、真島、松田、松村、山本、和崎

委任状提出：赤堀、岸上、慶田、瀬川

(第27期)

出席予定者：松田、綾部、伊藤、宇田川、岡田、小田、川田、桑山、湖中、佐々木、高倉、田中、棚橋、名和、速水、真島、三尾、箭内

委任状提出：栗本、慶田、白川、中谷、森山

*下線は重任

〔承認事項〕

1. 2015年度第7回理事会議事録

〔報告事項〕

1. 会長報告

- ・関根第26期会長より、第26期理事会から第27期理事会へ申し送る主な課題として、①学会の法人化、②会費体系の見直し、③学会誌表紙デザインの変更の決定、④国立情報学研究所の電子図書館サービス(Nii-ELS)から科学技術振興機構が運営するJ-STAGEへの学会誌論文データの移行、⑤国際情報発信強化関連事業への対応、⑥第52回以降の研究大会開催校の選定が挙げられることを報告。

2. 庶務理事報告

- ・松村第26期庶務理担当理事より、第13回(平成28年度)日本学術振興会賞の学会推薦を行ったことを報告。

3. 会計理事報告

- ・欠席の赤堀第26期会計担当理事に代わり松村第26期庶務理担当理事より次の5点が報告された。
 - ①平成27年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化(B)」の執行完了。
 - ②平成27年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「成果公开发表(B)」の残金を日本学術振興会へ返金し執行完了。
 - ③平成28年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化(B)」と「成果公开发表(B)」の採択内定。
 - ④地区研究懇談会及び課題研究懇談会の各懇談会からの会計報告を受領。
 - ⑤2015年度決算に関する監査を5月9日に実施予定。

4. 総務理事報告

- ・真島第26期総務担当理事より、平成28年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化(B)」の採択内定通知(5年間の継続課題)が届いたことを報告。
- ・平成28年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「成果公开发表(B)」の採択内定通知が届いたことを報告。今年度の学会主催公開シンポジウムは太田理事を中心に九州で開催予定であること、澁澤民族学振興基金の平成28年度民族学振興プロジェクト助成の採択も決定していることを報告。

5. 広報理事報告

- ・栗田第26期広報担当理事より、学会HPに「理事会からのお知らせ：学会会費体系の改定について」を掲載したこと、これをJASCA-INFOでも配信する予定であることを報告。
- ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき4件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。

6. 第26期各種委員会報告

- ・JRCA編集委員会：桑山第26期JRCA編集主任より、Vol.16の刊行について報告。
- ・「国際情報発信強化」特別委員会：桑山第26期「国際情報発信強化」特別委員会委員長より、平成28年度科研費が継続課題として採択内定されたことを受け5年間を見据えた計画を実施していくことを報告。

- ・法人化検討委員会：山本第 26 期法人化検討委員会委員長より、2015 年度総会における決定を受け、法人化に向けて定款（案）の作成を行ってきたことを報告。
- ・国際化・グローバル化対応委員会：関根第 26 期国際化・グローバル化対応委員会委員長より、学会誌の英語化や学会誌編集体制の国際化等の改革の必要性等、文部科学省の示す方向性に対応しつつ、学会としてグローバル化とは何かを考える必要があるとの認識によって、第 26 期に新たに設置した委員会であることを説明。
- ・民博連携委員会：上杉第 26 期民博連携委員会委員長より、国立民族学博物館から企画展示「ワンロードー現代アポリジニ・アートの世界」（会期 2016 年 6 月 9 日～7 月 19 日、於国立民族学博物館）の後援依頼があり、持ち回り理事会にて審議、3 月 25 日付で後援が承認されたことを報告。
- ・課題研究懇談会担当委員会：2015 年度は新規課題 1 件、継続課題 2 件を承認したことを報告。また、「課題研究懇談会」設置規則に定められている、学会誌の「資料と通信」に 2 年に一度活動報告を掲載する義務について、各課題研究懇談会に注意喚起したことを報告。
- ・研究大会運営検討委員会：欠席の岸上第 26 期研究大会運営検討委員会委員長に代わり松村第 26 期庶務担当理事より、第 49 回研究大会準備委員会より研究大会報告及び会計報告書が提出されたことを報告。会計報告書に基づき、1,200,000 円の補助金の他、大会終了後に赤字補填のため学会本会計から 1,400,000 円の補填を受け、最終的に学会本会計へ補填金の残額 185,166 円を返金したことを確認の上、大会報告、会計報告がなされた。
- ・地区研究懇談会：各地区の研究会開催状況、開催予定を報告。
- ・倫理委員会：松田第 26 期倫理委員会委員長より、倫理委員会規定が学会 HP へ掲載されたことを報告。

〔審議事項〕

（新旧合同理事会）

1. 第 27 期理事の役割分担について
 - ・松田第 27 期会長候補より挨拶。第 27 期理事の役割分担について説明があり承認された。未決定の委員長、委員については次回理事会までに決定することを確認した。また、WCAA Delegate には窪田幸子会員（第 26 期理事）が任命された。
2. 総務会の職掌と構成について
 - ・松村第 26 期庶務担当理事より、第 26 期理事会における総務会の職掌と構成について説明があった。松田第 27 期会長候補より、第 27 期理事会における総務会の職掌と構成について説明があり承認された。
3. 第 26 期理事会から第 27 期理事会への引継に関する全体説明
 - ・関根第 26 期会長より、第 26 期の活動について、次の 4 点を中心に総括的な説明と申し送りがあった。
 - ① WCAA Delegate の継続性が重要であるとの認識に立ち、第 27 期からは会長がその期の Delegate を務めるのではなく、理事に限定せず会員から WCAA Delegate を任命し、一期を 2 年として再任を二回まで認めることが第 26 期理事会で承認されたことが説明され、この制度は第 27 期から開始されることを確認した。
 - ② 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「国際情報発信強化(B)」が 5 年間の継続課題として採択内定を受けたことについて、補助金がつかなくなる 6 年後を見据えて事業内容を検討し続ける必要があることを確認した。
 - ③ WCAA の発行するオンラインジャーナル *Déjà Lu* への論文掲載について、本来 1 年以内に発表された論文の掲載が規定されていることに対し、本学会の事情を説明し掲載を認める期間の延長を依頼していたが、このたび先方から、本学会から提出された論文については 2 年以内に発表された論文の掲載を認めるとの回答があったことが報告された。従って、今年度は選出されている奨励賞論文で対応可能であるが、基本は一年以内なので、今後奨励賞の選考時期や、何を *Déjà Lu* に掲載することが学会にとって有効かを速やかに検討する必要があることを確認した。
 - ④ 日本文化人類学会学会賞選考規則の改定を第 26 期で行ったことが報告された。
 - ・松村第 26 期庶務担当理事より、2015 年度事業報告について資料に基づき説明があった。
 - ・欠席の赤堀第 26 期会計担当理事に代わり松村第 26 期庶務担当理事より、2015 年度決算について資料に基づき説明があった。

第 49 回研究大会の赤字補填のための追加支出を承認した経緯について第 27 期理事より説明が求められた。松村第 26 期庶務担当理事より、研究大会前に理事会へ収支試算が提出され不足額分を学会本会計から支出することが承認されていたが、予定を上回る赤字となったため 1,400,000 円の補填を行

うこととなった経緯が説明された。

4. 第 26 期理事会から第 27 期理事会への担当理事別の引継説明

- ・各委員会・担当の引継ぎを新旧担当理事が個別に行い、時間が不足する場合は個別に連絡の方法を決定して後日引継ぎを完了することとした。
- ・個別に行った引継ぎの内容や作成した引き継ぎ資料については、松村第 26 期庶務担当理事及び学会事務局に提出することとした。

5. 第 11 回日本文化人類学会賞の授賞理由について

- ・学会賞選考委員会より第 11 回学会賞の授賞理由書案が提示され、審議の結果、承認された。授賞理由は授賞式後学会 HP に掲載することを確認した。

6. J-STAGE への ELS データ移行について

- ・国立情報学研究所の電子図書館サービス (Nii-ELS) 終了に伴い、掲載されていた学会誌論文データを科学技術振興機構が運営する J-STAGE へ移行するにあたり、移行申込書に記入する各前身誌の資料コードを決定する必要があることが説明され、意見があれば名和第 27 期広報・情報化担当理事へ連絡することとした。

〔審議事項〕

(第 27 期理事会)

7. 新入会員の承認について

- ・2015 年度第 7 回理事会以降の入会申込書を回覧し、2 名の入会を承認した。2008 年度以降、総務会で随時入会承認を行い、次の理事会で事後承認を得る手順を実施していることを説明し、今期も同様の手順を踏むことを確認した。

8. 2016 年度事業計画案および 2016 年度予算案の概要について

- ・川田庶務担当理事より、2016 年度事業計画 (案) について説明があり、原案が第 26 期理事会からの申し送りであることを確認の上、担当ごとに原案の検討を依頼した。意見があれば川田理事へ連絡することとした。
- ・綾部庶務担当理事より、2016 年度予算 (案) について説明があり、原案が第 26 期理事会からの申し送りであることを確認の上、担当ごとに原案の検討を依頼し意見があれば綾部理事へ連絡することとした。今年度からの変更点として、これまで研究大会補助金としていた各開催校への支出は研究大会預け金とし、返金を前提とする初期の運転資金であることを確認した。また、研究大会託児所料のあり方や金額については今後検討を行うこと、IUAES 会費については IUAES との関係も含め検討が必要であることを確認した。

9. 被災会員の会費徴収特例措置の延長について

- ・川田庶務担当理事より、「東日本大震災の被災会員に対する 2011 年度会費徴収特例措置」について説明の上、2016 年度の特例措置延長について提案があり、承認された。この決定については JASCA-INFO で会員に周知すること、配信文案については総務会に一任することが承認された。

10. 名誉会員候補者の選出について

- ・川田庶務担当理事より、2016 年度に名誉会員内規第二章第二条に基づき 1 名の候補資格者がいることが説明された。第 26 期 2015 年度第 7 回理事会において審議を実施し承認済みであることが報告され、第 27 期理事会において引き継いだ上で、承認された。他に推薦があれば次回理事会まで提案を受け付けることとした。

11. 第 27 期監事候補者の選出について

- ・川田庶務担当理事より、監事候補の選出方法についての第 27 期総務会案が提示され、承認された。

12. その他

- ・山本第 26 期法人化検討委員会委員長に代わり、栗田第 26 期広報担当理事より、学会 HP と『文化人類学』学会誌 81 巻 1 号に掲載し、JASCA-INFO で配信する予定の「法人化に関する提案」について、資料に基づき説明があり、審議の結果、掲載文面の確定については第 27 期総務会に一任することが承認された。
- ・綾部会計担当理事より、第 50 回研究大会開催校である南山大学に学会から託児所料として付与した 3 万円に加え、前年度付与の補助金 120 万円の中からさらに支出を行って、利用者の負担減を図りたいとの要望を受け、総務会としてこれを承認したことが報告され、事後承認された。
- ・次回理事会は 5 月 15 日 (日) 開催予定。

以上。